

都市圏在住者（福岡県）との“本気”で語ろう会 会議録

団体名	都市圏在住者（福岡県）
日時	令和4年8月4日（木）19時00分から20時30分まで
場所	オンライン開催（7階OA研修室）
参加者	本市出身等の都市圏在住者（福岡県）：4名
	人口減少対策本部：2名
<p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ やりたい事や住みやすさを考慮し、福岡に就職、居住している。 ・ 鹿屋は車がないと不便。バスの本数が少ない。また、若者向けのコンテンツがないというより、高齢者向きのまちだという印象がある。 ・ 都市圏は、雇用（仕事）や教育（大学等）の選択肢が広い。生活に必要な病院やショッピングや娯楽施設の数が多く、飽きがこない。 ・ 自分のやりたい仕事に見合う雇用の場が鹿屋にあれば、帰りたいと思うが、現実的に今従事している仕事を地元で見つけるのは難しい。 ・ 親は、地元に戻ってきてほしいと望んでいるが、現在の仕事等を考えると、難しいと考えている。 ・ IT企業では、部署により、在宅ワークを推進している企業が増えているが、都市圏の生活利便性を考えると、地元に戻るのには難しいと感じる方が多い。 ・ 鹿屋の情報が入ってこない。知人から聞くことはあっても、自分で情報を取りに行くことがない。鹿屋からの情報発信が必要。 ・ 企業説明会時の旅費や宿泊費の支援等があればよい。 ・ 若い世代（子供たち）に対して、地元の学校に通っている間に、地元の企業の情報を得られる場や、情報交換の場を設けてほしい。 ・ ユクサやひまわり畑、ばら園など個々で頑張っているイメージが強く、鹿屋が1チームで取り組んでいる雰囲気がない。 ・ 30代の横の連携、関係性が希薄になっている。 仕事や子育て等に関わる悩みの共有や地元内外の同年代の連携コミュニティづくりをバックアップしてほしい。 ・ 鹿屋市は農業が基幹産業なので、ITと農業のコラボレーションにより、働き手を確保する取組を考えてほしい。 ・ 農業系で起業したいと考えているが、人材や設備、IT技術等の支援を考えたときに、地元での起業は不安であり、都市圏で起業し経験を積むほうがよいと考えてしまう。 ・ 教育に強いまちには、子育て世代が集まると思う。教育の充実や、奨学金等の支援制度の充実が必要だと思う。 <p>【意見交換】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市外に居住した理由・きっかけについて ・ 都市圏の魅力・暮らし、鹿屋市とのギャップについて ・ 鹿屋への愛着があるか、将来鹿屋に帰ってきたいか ・ 親は、鹿屋に帰って来てほしいと望んでいるか ・ IT企業における在宅ワークの現状について 	

- ・ 地元で選ぶお土産について
- ・ 外からみた鹿屋の良さ・課題・望むこと

1 市外に居住した理由・きっかけについて

- 鹿屋市内の高校卒業後、鹿児島市の大学進学を経て、福岡で就職。IT企業のエンジニアとして防衛省向けのシステムを作っている。
希望する大学は県内にあったが、大学の専攻を活かす就職先が県内にはなく、福岡に就職した。
- 志布志市の高校を卒業し、東京の大学に進学。地元に戻る選択肢もあったが、都市圏での生活を経験したいと思い、雇用が多い地域である福岡に居住している。
- 鹿屋市内の高校へ進学し、鹿児島市の大学に進学後、エンジニアとして就職。その後転職のタイミングで一時期鹿屋に戻っていた際、在宅ワークに興味があり転職先を探したが、県内には希望する形態の企業がなく、県外に住みたい思いもあり、福岡のIT企業に転職し居住。
- 鹿屋市内の高校を卒業し、一人暮らしをしたいと思い、福岡の大学に進学。卒業時、東京で働きたいと思いIT企業に就職。広島勤務を経て、現在福岡に勤務及び在住。自分のキャリアプランの中で、東京は住むところではないと感じ、大学時ゆかりのある福岡に転勤を希望した。

2 都市圏の魅力・暮らし、鹿屋市とのギャップについて

- 鹿屋は車がないと不便。バスの本数が少ない。また、若者向けのコンテンツがないというより、高齢者向きのまちだという印象がある。
福岡は、交通利便性が良く、JRやバス、地下鉄での通勤がメインである。
- 鹿屋は帰省するふるさとであり、悪い印象はないが、交通の便が悪い。鹿児島市内から鹿屋市の移動等、車以外での利便性が悪く、陸の孤島のイメージがある。
高校時代は、自転車でダイワに行くぐらいの行動範囲に限られるが、都市圏では電車で1時間程度で中心部に行くことが出来るなど行動範囲の差が大きい。
- 鹿屋は、食べ物の美味しさや自然の豊かさがあり、リタイアした高齢者が住むまちの印象を受ける。
- 都心部は雇用や学びの場の選択肢が多い。
- 都心部、田舎はそれぞれ良さがあると思う。
 - ・ 都心部：人が多く住みにくい。雇用、経済の中心地
 - ・ 地方：ゆったりとして住みやすい場所。福岡は、住みやすさのバランスが良い。
- 鹿屋は、田舎ならではの楽しみ方が出来る。都市部だと花火などをする場所がない。鹿屋では、公園が近く花火が出来る場所が多い。高校時代は、ダイワで友人と話したり、店内を回ったりが楽しかった。
- 都市圏は、雇用（仕事）や教育（大学等）の選択肢が広い。生活に必要な病院やショッピング、娯楽施設の数が多く、飽きがこない。

特に病院等は、女性医師や治療へのこだわり等ニーズの多様化に対応していることがありがたい。

3 鹿屋への愛着があるか、将来鹿屋に帰ってきたいか

- 自分のやりたい仕事に見合う雇用の場が鹿屋にあれば、帰りたいと思うが、現実的に今従事している仕事を地元で見つけるのは難しい。
- 今のところは、歳をとったら地元に戻り、ゆっくりしたいという思いはある。
- 将来、帰りたいという思いがあるが、現在のところは考えていない。福岡で学ぶ事、学べる事が多く、毎日が充実している。
地元は、帰省した時など、ゆっくり時間が流れ、落ち着く場所である。

4 親は、鹿屋に帰って来てほしいと望んでいるか

- 両親には、地元に来てほしい、将来帰ってきてほしいということはよく言われる。ただ、雇用の場等を考えると、県外の居住は致し方ないとも言われる。
- 3人兄弟の末っ子であり、鹿児島県内に住んでいる兄弟もおり、あまり戻ってきてほしいと言われることはない。
- 両親からは、多少は地元に戻ってきてほしいと言われることがあるが、強制はできないので無理強いはしないとされる。

5 IT企業における在宅ワークの現状について

- 現在、自分の所属するプロジェクトチームは完全在宅になっており、本社からの呼び出し等で出社する以外は、出社していない。業務内容により異なるが、会社の方針で出社率を現在の50%程度にすることを目指している。
- 事務所面積を現在の半分程度にする方針が出ており、在宅勤務は進んでいる。自分は営業のため、事務所への出社はあり、完全在宅とまではいかない。
- セキュリティの問題や契約相手方（国等）の関係もあり、自分の会社では、在宅勤務は不可である。
- （在宅勤務が可能になった場合、鹿屋に戻る選択肢があるかとの問いに対して）
 - ・都市圏の便利さには代えられないので、鹿屋に戻る考えはない。
 - ・サテライトオフィスやコワーキングスペース等箱ものを作る自治体も多いが、福岡で地方との2拠点で仕事をする事例は聞いたことがない。

6 地元で選ぶお土産について

- フェスティバルのお菓子
- 豚みそは子供達にも人気であった。
- 焼酎は大人には喜ばれるが、かさばるし重い。
- 鹿屋では買わず、鹿児島市内の土産を持ち帰る。

7 外からみた鹿屋の良さ・課題・望むこと

- 福岡には、若いエネルギーを持ち、起業しようとする方が多いが、地方に行くメリットがない。何か地方で働くメリット（支援制度）等があればよい。サテ

ライトオフィス等の施設だけ作っても人は集まらないと思う。

- 鹿屋の情報が入ってこない。知人から聞くことはあっても、自分で情報を取りに行くことがない。鹿屋からの情報発信が必要。
- 企業説明会時の旅費や宿泊費の支援等があればよい。
- 若い世代（子供たち）に対して、地元の学校に通っている間に、地元の企業の情報を得られる場や、情報交換の場を設けてほしい。
- 食事やアミューズメントの情報は、インスタやネット等で調べる場合が多い。
- インスタ等で知らない地元のお店を調べて、友人と出かけたが、行きたいお店が限られているので、地元のお店がもっと情報発信してほしい。
- 鹿屋に賑わいが無いと感じる。コロナの影響もあると思うが、夏祭り等のイベントもなく、中心市街地等も変わっていない。行くところも自分が知っている馴染みの場所等に行くことが多い。
- ユクサやひまわり畑、ばら園など個々で頑張っているイメージが強く、鹿屋が1チームで取り組んでいる雰囲気がない。
- 通販でしか買物が出来ない。もっと地元にお店やアクティビティの施設等があれば出かけたくなる。
- 交通機関の整備や工夫は必要だと思う。
- 女性医師のいる産婦人科や小児科、歯医者等病院施設の充実が必要。
- 安定した集客が出来るお店が増えるとよい（全国展開のお店等）
- 多世代が買い物しやすい量販店（ユニクロ・GU等）があればよい。
- 子供の頃、行動範囲も狭く、外部の刺激を受ける機会が少なかった。教育の中でもっとまちの事など取り入れてほしい。
- 30代の横の連携、関係性が希薄になっている。
仕事や子育て等に関わる悩みの共有や地元内外の同年代の連携、コミュニティづくりをバックアップしてほしい。
- 鹿屋市は農業が基幹産業なので、ITと農業のコラボレーションにより、働き手を確保する取組を考えてほしい。
- 農業系で起業したいと考えているが、人材や設備、IT技術等の支援を考えたときに、地元での起業は不安であり、都市圏で起業し経験を積むほうがよいと考えてしまう。
- 教育に強いまちには、子育て世代が集まると思う。教育の充実や、奨学金等の支援制度の充実が必要だと思う。